

薬学部・薬学研究科

I	研究水準	研究 7-2
II	質の向上度	研究 7-2

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究状況の実施状況については、平成16年度からの4年間で、論文、総説、著書が約1,400件、大学院生による学会発表が1,117件、招待講演525件等相当数の業績を上げている。特に、自然科学における最も権威のあるNature、Science等に掲載された論文が5件あり、有機化学分野で、最も引用された原著論文に贈られるリサーチフロントアワードを受賞した業績等が注目される。研究資金の獲得状況については、研究資金の合計が、平均して、1年間に11億円以上となり、基幹定員数52名についていえば、教員一名当たり2,115万円であることは、優れた成果である。

以上の点について、薬学部・薬学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、薬学部・薬学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、薬学研究科は総合科学であり、バランスのとれた研究成果が要求される研究科である。その点を考慮してみても、骨等の形態形成に関与する細胞間シグナル伝達因子であるBMPに関する研究、チャンネル関連の新規小胞体膜タンパク質の発見、アスピリン喘息の分子機構研究、ホタルの発光タンパク質に関する研究、有機分子触媒に関する研究で卓越した成果を収めている事は評価できるなど、優れた成果である。

以上の点について、薬学部・薬学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、薬学部・薬学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。